完了報告書

日本財団　会長　笹川　陽平　殿

報告日付：2022年6月20日

事業ID：2019521415
事業名：リカバリーカレッジOKAYAMA
団体名：社会福祉法人あすなろ福祉会
代表者名：理事長　杉原　綾乃　印
TEL：086－273－9692
事業完了日：2022年3月31日

■契約時

事業費総額	：	2,950,000	円
自己負担額	：	590,000	円
助成金額	：	2,360,000	円

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	：	2,638,306	円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	：	528,306	円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	：	2,110,000	円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	：	250,000	円	（収支計算書の青のセルの値）

1.事業内容

国際的には医療保健福祉機関だけでなく、街でメンタルヘルスの課題からの回復を学ぶリカバリーカレッジ（以下、カレッジ）が運営され、効果をあげている。カレッジは教育的パラダイムでの「コ・プロダクション（専門家と精神障害者と市民の共創）」に基づいた取組である。本事業ではカレッジが質を保ちつつ継続的運営できるようトレーナー研修の充実を図り、カレッジの組織の基盤づくり、システム構築を行う。人材育成には研修のみではなく、継続的なスーパーヴィジョン（以下SV)を取り入れる。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容（予定）

（1）全体会を年3回実施
（2）部門別（広報・カリキュラム）ミーティングを年12回実施
（3）それぞれの部門の役割を明確にした組織図ができる
（4）講座内容及び担当トレーナーの決定手続き等運営マニュアルができる

(2)事業完了時の事業内容（実績）

（1）全体会　7回開催
（2）部門別（広報・カリキュラム）ミーティングを年17回実施
（3）それぞれの部門の役割を明確にした組織図は作成した。
（4）全体会、部門別ミーティングでは講座内容及び担当トレーナーの決定手続き等は行ったが、運営マニュアルは作成できなかった

(3)成功したこととその要因

オンラインでの開催に変更したことで委員の参加がしやすくなり、時間を意識することで集中して会議を行うことができた。

(4)失敗したこととその要因

オンラインに慣れるまでに時間がかかり、開催数が増えた

(5)事業内容詳細

別添の事業報告書を参照

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(1)昨年度作成した養成研修マニュアルをもとに、リカバリーカレッジの運営方法や講座のファシリテーションについて学ぶ研修を年1回以上開催
(2)講師は昨年度トレーナー養成研修の修了者とする
(3)参加者は20名以上で半数以上が医療保健福祉専門職以外とする

(2)事業内容の実施(完了)状況

(1)昨年度作成した養成研修マニュアルをもとに、入門編研修、1回、ファシリテーター研修、2回開催
(2)講師は昨年度トレーナー養成研修の修了者が行った
(3)参加者は 11名(医療保険福祉従事者、精神障害者及び家族、教育関係者等)

(3)成功したこととその要因

小人数により一人一人丁寧に研修を行うことができた。

(4)失敗したこととその要因

対面においては人数を制限したため当初の参加見込みより少ない状況であった。
コロナ感染拡大により当初の開催日数が出来なかった

(5)事業内容詳細

別添の事業報告書を参照

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(1)全国的なリカバリーカレッジのネットワークを構築し、互いに研鑽しあう場を年2回以上開催
(2)スーパーヴィジョンの実施
(3)参加者の満足度が70%以上(参加者へのアンケートで調査)

(2)事業内容の実施(完了)状況

(1)全国的なリカバリーカレッジネットワーク集会を2回開催
(2)スーパーヴィジョンの実施は出来なかった。
(3)参加者の満足度は1回目は参加者37名中アンケート回答32名、満足度は大変満足、満足併せて29名で90%。2回目は参加者約50名中アンケート回答42名、満足度は大変満足、満足併せて40名で95%であった。

(3)成功したこととその要因

コロナ対策としてオンラインによる集会に切り替えることで、全国からの参加もできるようになった
今まで全国で活動しているリカバリーカレッジ実践者との連絡会ができ、第2回目のネットワーク全国大会を行うことが決まった

(4)失敗したこととその要因

直前まで岡山会場現地のみでの開催を行うように準備をしてきたことで、広報が遅れてしまった

(5)事業内容詳細

別添の事業報告書を参照

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(1)2クール実施
(2)合計30セッション以上のプログラムを提供
(3)リカバリーカレッジ事務局員を開催期間1名配置
(4)参加者の満足度が70%以上(参加者へのアンケートで調査)

(2)事業内容の実施(完了)状況

(1)2クール実施
(2)合計36セッションのプログラムを提供
(3)リカバリーカレッジ事務局員を開催期間1名配置した。
(4)参加者の満足度は全参加者47名満足度は大変満足、満足併せて47名で100%。

(3)成功したこととその要因

運営委員会の全体会、ミーティングをじっくり行うことで講座の内容をじっくり検討することができ、また広報も余裕をもって行えた。

(4)失敗したこととその要因

対面での開催にこだわり、オンラインでの準備に時間がかかった

(5)事業内容詳細

別添の事業報告書を参照

■事業内容5

(1)契約時の事業内容

1)スキルアップ研修を年1回以上開催
(2)参加者の満足度が70%以上(参加者へのアンケートで調査)

(2)事業内容の実施(完了)状況

(1)スキルアップ研修を2回開催
(2)参加者の満足度は2回目実施の31名中31名が大変満足、満足と回答

(3)成功したこととその要因

トレーナー研修がコロナ感染拡大により当初4日開催予定が3日となったために2回目を実施した。
実践者による研修のため活発な意見が交わされた

(4)失敗したこととその要因

オンライン開催の1回目については不慣れなことがありアンケート調査を実施できなかった

(5)事業内容詳細

別添の事業報告書を参照

2.契約時事業目標の達成状況：

(1)助成契約書記載の目標

①リカバリーカレッジOKAYAMA運営委員会全体会・ミーティングを開催
・リカバリーカレッジ運営委員会全体会の実施　（年3回）
・リカバリーカレッジ部門別（広報・カリキュラム）ミーティングを実施（年12回）
・それぞれの部門の役割を明確にした組織図ができる
・講座に関して、その内容及び担当トレーナーの決定手続き等運営マニュアルができる

②リカバリーカレッジトレーナー養成研修の実施
・昨年度作成した養成研修マニュアルをもとに、リカバリーカレッジの運営方法や講座のファシリテーションについて学ぶ研修を年に1回以上開催する。
・講師は昨年度トレーナー養成研修の修了者である。
・養成研修の参加者が20名以上で半数以上が医療保健福祉専門職以外である。

③リカバリーカレッジネットワーク集会の実施
・全国的なリカバリーカレッジのネットワークを構築し、互いに研鑽しあう場を年２回以上開催する。
・スーパーヴィジョンを行う
・リカバリーカレッジネットワーク集会参加者の満足度が70％以上になる（参加者へのアンケートで調査）

④リカバリーカレッジの実施
・2クール行う
・合計40セッション以上のプログラムを提供する。
・リカバリーカレッジ事務局員を配置する。
・参加者の満足度が70％以上（参加者へのアンケートで調査）

⑤リカバリーカレッジトレーナースキルアップ研修の実施
・リカバリーカレッジトレーナーのスキルアップ研修を年に1回以上開催する。
・リカバリーカレッジトレーナーのスキルアップ研修参加者の満足度が70％以上になる（参加者へのアンケートで調査）

(2)目標の達成状況**[700文字以内]**

入力文字数	**501**	文字数チェック	OK

精神障害者の回復において「リカバリー」という概念が重要であるといわれている。しかし、日本においては地域移行も進まず、精神障害者の「リカバリー」の実現には様々な障壁が存在している。諸外国においては、「リカバリー」の実現に向け、教育的パラダイムから提供されるリカバリーカレッジが効果をあげ注目をされている。
2018年度よりリカバリーカレッジOKAYAMAを実施し、新たな課題が見えてきた。それは今後もリカバリーカレッジの質を保ちつつ継続実施していくためには人材育成とネットワークの構築が最重要だということである。リカバリーカレッジの組織編成、システム構築をさらに行い基盤を整えていくこと。また、先進国イギリスから学んだこととして、人材育成には研修のみではなく、継続的なスーパーヴィジョンが要することもわかった。そのため今年度は運営委員会やミーティングの回数を増やすこと、人材育成とネットワークの構築によるリカバリーカレッジの普及に重点を置いた。
コロナにより予定通り実施することが困難が取り組みもあったが、オンラインで実施するなど新たな取り組みにもチャレンジし、ネットワークの構築に取り組むこともできた。

3.事業実施によって得られた成果

国際的には医療保健福祉機関だけでなく、街でメンタルヘルスの課題からの回復を学ぶリカバリーカレッジ（以下、カレッジ）が運営され、効果をあげている。カレッジは教育的パラダイムでの「コ・プロダクション（専門家と精神障害者と市民の共創）」に基づいた取組である。本事業ではカレッジが質を保ちつつ継続的運営できるようトレーナー研修の充実を図り、カレッジの組織の基盤づくり、システム構築を行う。人材育成には研修のみではなく、継続的なスーパーヴィジョン（以下SV)を取り入れることが大事である

＜助成金終了後＞
カレッジを1年間に2クール以上実施。⇒運営委員会を開催しカレッジを実施予定
全国的なネットワークが構築され、年に1回経験交流会が開催される。⇒次回開催は福岡に決定
設立及び運営のガイドラインに基づきカレッジが実施される。⇒今年度のスキルアップ研修にてフィデリティ資料をもとに行った
持続可能な運営のために、継続的なSVが行われている。⇒新たなスポンサーを得て、研修を実施する

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

組織体制の構築ができなかった。
今後は助成事業が終了することで事務局が変更となる。3年間で得たノウハウを次につなげることが新たな課題。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

①カレッジ実施のパンフレット(秋講座、冬講座)500部
②リカバリーカレッジOKAYAMAホームページへの情報発信

(2)事業完了時の成果物名称

①カレッジ実施のパンフレット(秋講座、冬講座)各500部

②リカバリーカレッジOKAYAMAホームページへの情報発信

③公開講座のチラシ300部

(3)未作成となった要因

特になし

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL